

「世田谷生きもの会議」が将来、目指す姿(イメージ)



生物多様性の保全を進めるためには、これまで先駆的に活動してきたボランティアの方々に加えて、若い世代の参加や世田谷区を越えた協力体制など、新たな主体の参加が必要です。

「世田谷生きもの会議」では、将来、様々な主体のつながりをつくっていききたいと考えています。

生きものつながる世田谷プラン リーディングプロジェクト

世田谷生きもの会議



発行：世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課 〒154-8504 世田谷区世田谷 4-21-27 電話 03-5432-2282

平成30年度 「世田谷生きもの会議」を 開催しました



2019.01.28

2019年1月28日(月)成城ホールにて「世田谷生きもの会議」を開催しました。区内で生物多様性に配慮した場づくりをされている団体の皆さんが情報を共有し、連携して活動できる場を目指し、当日は11団体17名の方にご参加頂きました。

開催の経緯

「生きものつながる世田谷プラン～生きもの元気！ひと元気！生物多様性地域戦略～」策定の過程で、多くの区民や専門家の方々から様々な提案やご意見を頂きました。

その中で、生きものに係る団体同士の連携や、知識やノウハウの共有、また現場のマンパワーなどが、課題として挙げられていました。

そこで、世田谷の生物多様性を保全していくためには、皆さんの情報を整理し、発信する仕組みづくりや、生物多様性に配慮したみどりの保全・再生、創出をしていくための人材育成などの場が必要と考え、「世田谷生きもの会議」を立ち上げました。

各団体の皆さんの活動に役立つよう「世田谷生きもの会議」という場を、活用して頂きたいと考えています。

1/28「世田谷生きもの会議」のヒトコマ 活動情報のご紹介

特定外来種アレチウリについて

「野川(世田谷区部)の多自然川づくりを考える連絡会」より話題提供

●区内の野川では2004年頃から増加。繁茂力が大変強く、野川の川岸を覆い尽くし、河原の他の植物を駆逐する。放置すると護岸を這い上がって道路までツルが伸びるほど。

●そこで2010年頃から除去活動を始めた。アレチウリの生態を良く観察した結果、生長のタイミングに合わせた以下のような最も効果的な除去方法が分かった。具体的には…

アレチウリ除去のポイント

●除去作業は、春の芽だし(3～5月頃)の時期と同時に開始するのが良い。夏以降になると作業量と労力が大量に増える。

●これを2週間に1回のタイミングで繰り返すと更に良い。

【メリット】*芽が出たばかりなので抜くのがとても簡単
*実をつける前のため、トゲが気にならない*この時期は、サイズも小さく、水分が多くすぐ分解されるので、ゴミとして出さず、その場に置いたままで大丈夫。

●すでに土の中に埋まっている種子が数年間は発芽



7日目 本葉2枚の個体あり 10日目 2枚目の本葉のつけ根からツルヒゲを出す

力を持つ。気長に繰り返し、取り組むことが必要。

●アレチウリを抜くときにオオバタクサ(重点対策外来種)も一緒に抜くのが良い。ただし、こちらは放置すると新たに根を出し復活するので要注意。

昨年の成果

●2018秋は、野川の河川敷にシャクチリソバ、ミソソバ、オギ、カントウヨメナ、セイバンモロコシなど、様々な植物が生える、そんな景色が再現された。(特にカントウヨメナの増加は感動！)

余談

●作業中、河川敷で見かけるウシガエルやアメリカザリガニ、ミシシippアカミミガメなどについて、相談できる窓口があると嬉しい。

世田谷生きもの会議 今後の予定

「世田谷生きもの会議」では、生物多様性を育む環境づくりの参考となる場所を見学する「現地見学会」や、専門家を招いての「勉強会」の開催、そして引き続き取組団体の意見交換などの実施を予定しています。

みんなで応援！プロジェクト

野川のアレチウリ駆除！大作戦

- ・日時：5月25日(土)10時～12時終了 ※雨天予備日5月26日(日)
- ・集合：(一財)世田谷トラストまちづくりビジターセンター前
*雨天延期等の判断は、当日朝8時にブログへ掲載 <http://gaisennogawa.blog.fc2.com/>
- ・申込み不要、参加費無料/持ち物：動きやすい服装・帽子・水筒
- ・問合せ：tel.090-3225-1066 nogawast3835@gmail.com
野川(世田谷区部)の多自然川づくりを考える連絡会

助っ人大募集

「世田谷生きもの会議」の目的

生物多様性は、様々な生きものや生態系がつながりあって成り立っており、私たちの暮らしも、そのつながりによってできる環境に支えられています。

「生きもの会議」は、個々の団体の生きもの情報や活動ノウハウなどを発信、共有し、みどり・生きもの・ひとをつなげることで、個々の活動を発展、活性化させるとともに、ひいては、生物多様性を向上させ、生物多様性の恵みを次世代に引き継いでいくことをめざします。



次のテーマで話合いました

…区内団体の皆さんより …区より

「世田谷生きもの会議」で取り組みたいことについて、事前にアンケートで伺った項目から、皆さんの興味がある下記のテーマについて、話し合いました。

●「みどりや生きものに関する情報共有」



・生きものしらべのように、子どもでも気軽に参加できる取り組みを進めつつ、「世田谷の生物多様性はどのようになっているか」「区内にどのくらい生きものがあるか」実際のデータを集め、まとめていく戦略を練る。どう集めるか、この会で企画したい。(例) City Nature Challenge 2018-Tokyo

・団体同士の横の連携で、役立つ活動もある(例) 竹山市民緑地で廃棄する竹の枝を、成城三丁目緑地で「竹そだ」に利用

・会議をして、情報共有して終わりではなく、横の連携をしていかないと。

・ナガミヒナゲシのように分かりやすい種について、地域の講習会や駅前での花壇活動などの機会にお話して、どんどん理解の輪を広げていくことができるよ。

・外来種について楽しく学ぶ場ができればよ。

・例えば、シジュウカラ巣箱かけを区全域でやってみるとか？

・多様な生きものが生息できる環境をつくるテクニックや工夫を広める場をつくる。
・経験者からの情報を共有する場をつくる。
・取り組んだ結果、多様性が高まったことを専門家が評価できるシステム&しくみづくり(例) トラまちの「3軒からはじまるガーデニング」

・今日の会議の参加者は、国分寺崖線上で活動されている方が多い。しかし住宅街のみどりの質のことも考えていきたい。例えば区内各地の公園管理協定団体のような方々のほうが、圧倒的に人数も活動面積も多い。そうした方々も、ともにこの取り組みを進めていけるように考えていく必要がある。

・自分たちの活動が多様性にどう関係しているかが、理解できる場があるとよい。

●「活動上の困りごとのヒントが得られる」

●「生物多様性を高めるノウハウの共有」

●「専門家の知見を得られる勉強会」



・何を保全したいのか議論がまとまらなくなってあきらめたことがある。

・着目する生きものが偏らないよう、こういう点に配慮したら環境がもっとよくなる、こういう現象は危ないなどの助言、見るための着目点を学びたい。

・環境ごとに注目すべき視点を得られるような勉強会がよい。

・生きもの会議の場で勉強会を開催することも。

・いろいろな団体がそれぞれ勉強会を企画し、実施している。情報を共有して開催団体以外の人も参加できるようにしても。

・生きもの会議として開催して、誰でも参加できるようにするとか。

・区の方たちも参加してくれるとよい。

・学識者にきてもらい講義を受けるケースのほか、自分たちの経験から助言できるような機会、勉強会、出張セミナーとか。

・団体同士、得意分野を教え合うなど、そういうつながりが持てる会議体ができたら。

●「活動や生きもの情報等の区民への発信」

●「SNS等を活用した情報共有の場づくり」

●「学校等との連携」



・子どもたち*専門家を、フィールドでつなげたい
今の子どもたちは、放課後に自然に接する機会が激減している。親子一緒に自然体験できることが大事となる。

・学校等との連携については、区でどうサポートできるか研究します

・SNSは面倒くさい点もあるがやはり絶対に使った方がよい。視覚に訴えるのが大事。

・どこもマンパワー不足なので、ふだんからよく発信し、今日なら参加できるよという人にうまくマッチングできるように。

・ブログは意外と出しておくで見ている人がいるという実感がある。見たい情報を検索できるのもよい。つくるのも結構簡単。(例) すみればブログ、きぬたまブログ

●「ご意見やご質問」

・区として、みどりをどうしていきたいのか

・野川のこと。人間の動きで自然が変わる。何を残し大事にしたいか。(例) 年二回の野川草刈りは、河川から1mをトンボのために刈らないようにしてもらっている。
・植物も、川の生きものも大切にしたい

・区民の皆さんにとって、快適なみどりの質を持った世田谷にしていきたい。「みどり33」に全区的に取り組んでいるが、量だけの話でなく「質」の高いみどりづくりも目指していく。

・区民のみどりに対する満足度は、みどりに「大変満足している(12%)」「どちらかという満足している(58%)」(区政モニターアンケート 2016(平成28).9より)となっている。みどりに「大変満足している」を、12%から「33%」となるように、取り組みたい。

・将来的には、団体の方が議長(交代でも良い)として進めるような会議で、区全体の団体が意見交換するような場となれば、理想的。

・他の団体の取り組みや後継者問題などをこの会議の場で共有して取り組んで行けたら…。

ご参加いただいた団体(団体名・五十音順)

砧・多摩川あそび村/成城三丁目緑地里山づくりコア会議/成城みつ池を育てる会/せたがや自然環境保全の会(SNECS)/世田谷すみればネット/せたがや野川の会/野川とハケの森の会/船橋小径の会/三宿の森緑地 緑グループ

まとめ ~生物多様性を高めていくために~

1. 個々の団体の垣根をこえて、協力していこう!



2. 生物多様性を高めていくために、フィールドを見つめ直したい

- ①データをまとめる戦略づくり
- ②どのような種に、どう注目したらよいか
- ③気候変動(温暖化)などにどう対応していけばよいか
- ④守ったり増やすために何をしていけばよいか
⇒[取組み案] 専門家を招いての勉強会の開催など



3. 取り組む人や団体を増やすために戦略を練る



たとえば、公園管理協定団体など、みどりに関わる団体へ幅広く呼びかけ、区内各地へ活動の輪を広げていく。

& 連絡先について

・希望者には、団体同士で直接連絡が出来るように、区がメールアドレスなどをリスト化する。
*区から皆さんに送る場合は、BCCで送付。

4. 「専門家派遣制度(H32年度創設予定)」について、期待の声が。



こんな風にできたらいいな、例えば…
・学識者等にきてもらい講義してもらおう。
・ノウハウを蓄積している団体から派遣してもらい、相談にのってもらおう。
・〇〇さんに来てほしい、など指名できる。

5. 団体同士の、活動協力・交流



・大勢の人手が要る活動のときは、その時だけ参加する“助っ人ボラ”。
例) アレチウリ除去など
・あの団体の活動現場を見学したい、という意見が集まれば、現地見学会などの開催も。

6. 広報手段について



・ブログやホームページなどをやっている、それをきっかけに、ファンになる人もいます。検索機能も便利だ。
・FBなどのSNSは、リアルタイムに情報発信できるから、可能なら、やはり使った方がよい。